

全保連仙台大會の盛會を祈る

倉 橋 惣 三

第五回全保連大会が、八月六七兩日仙台に開かれる。その盛會を祈つて已まない。日本の幼児のために尽す同志

が、幼稚園、保育所の差を超え、国、公、私立の別を離れて、一つに幼児保育の心において、全国から会同することの如何に偉觀といふべきであらう。しかも、それが、單に随時的の会合でなく、あなたの全国保育連合会という恒常の集團の主催による、定時の年中行事たることにおいて、それがもつ意義、集り会する各員の心の極めて深きものがある。初めて東京にその第一回が発會せられた以前には、こういうものは我國に、あるべくして無かつたのである。

そして、全保育者の心から遺憾としていたことである。それが奈良に、新潟に、福岡に、第二、第三、第四と回を重ね来つて、今年の第五回に至つたのである。

殊に今年、仙台市の特別の優待として、仙台名物大七夕祭を以て、参集会員の目を慰めるといふよりも、驚かそうとしていられると聞く。目醒むる大趣向といふべきである。紅(公)紫(私)各々その妍を競いつつ、相交錯し、

相共和してこそ、保育界の錦を織りなすの壯觀を呈するところか。

部會が幼稚園、保育所の各分科に分れて、学校教育法によるものと、児童福祉法によるものと、その運営の討議にも、その方法の研究にも、各々その適切成果が予期せられるは素よりである。しかし、この分科会は、それぞれ獨立のものである以上に、全保連大会のうちのものである限り、施設としての各自の差異を自認すると共に、幼児保育の精神における共通を確認し、その差を以つて相協力し、その差異を以て相合する、真に日本の幼児のためのものである連合の大道を明かにするのでなければならぬ。これ亦、七夕の色紙が、それ／＼の形をもちながら、心を一つにして星を祭るのに似るものか。

酷暑を克服しての連日の熱心なる大会の、後に觀光、視察、レクリエーションの何んと豊富なる用意のされていることか。好みは君に任す。政宗公の雄志にもさんざんぐれ風流あるを忘れ拾うなよ。